

大坂労働者に考へるか 起つて東京の労働者

(17) 浜紡代表者木下。労資二階級の存続する間は両者の争は  
 何と云へも避くべからず 大坂の横濱、東京の横本家は一年あり  
 横本家は労働者を取取ふ蛋と殺す及存存あり 資本主義  
 撤廃すべし 鬼は豆にて逃ぐ方も根本家なる鬼は根強し  
 容易に倒るゝことなし 明日と云はす今日より資本主義打破  
 すべし

(18) 三田文部 木村信吉 目下実業方面は靜かなるも其西方面は  
 騒し 目下不景氣は在界を連下し来る其西方面の喧騒は  
 実業方面の達れたるを記するなり おとなしき労働者と劫  
 かすものは労働者資本家の繼の妙術による目下実業方面の靜  
 かなるは労働者資本家の恐怖心の結果堅信之義を發揮する

か為るべき 人民保護を看板にする 亦或は労働者に對して堅  
 危安を加へつゝあり労働者は人民に非ざるか 而も守るは  
 我々にあらずや 諸務巡查を見れば彼等は資本家の犬なることを  
 明かに証する 罷業の際には我々はたい 壓迫あるのみ 而も  
 の擁護者なりと思ふこと勿れ 眞面目に働けば喰へりとい  
 思ふことなかれ今や面目に働く者は常に貧困なり 此れ  
 を防むは労働団体の力あるのみ

(19) 「増進する社会」の編輯人 四宮伸支 労働者は常に自  
 由にして其の人間の生活を営まざるべからざるなり 然るを今  
 最も不自由にして人目以下の人間として存在するのはこれ何の爲  
 か 労働者生存することは不合理的なり クロポトキンは何なり  
 労働者は「喰ふ、住む爲に存す 是外に存せず」と然るを利得